

様式1

令和3年度 学校評価表

学校教育目標		「『高くかかげよ』～夢と希望を抱き、仲間とともに、高め合う子どもの育成～」												
a ミッション		深い学びの実現を目指したコミュニケーション能力の育成				a ビジョン		○生徒が誇りに感じる学校 ○教職員一人一人の知恵と力が、最大限に発揮される学校 ○組織的・機能的な学校運営体制が確立している学校				尾道市立日比崎中学校		
評価計画						自己評価				学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値	h 達成度	i 評価		イ	ロ	ハ		
高くかかげよ 夢と志を抱き、仲間とともに高め合う子どもの育成	<カリマネによる学校づくり> コア・カリキュラムとしての「サバプロ」と「赤船祭」の深化による表現力・コミュニケーション能力、主体性の育成	<研究部：チームラボ> 地域社会との連携と生徒発信力を高める総合「サバプロ」のバージョンアップを通した表現力・コミュニケーション能力、主体性（課題発見力）の向上	○生徒会や学級の話し合いから生徒発信で挑戦したいことを決め、単元開発を行う。 ○教科や領域で「サバプロ」を意識した取り組みを入れられるところを探し、実施する。 ○生徒専門委員会の取り組みと関連させる。	○総合的な学習の時間の授業満足度 ○コミュニケーション能力にかかわる項目 ○新しい単元の開発・実施	○平均85%以上 ○平均80%以上 ○実施の有無	93.3% 平均81.6%		106%	A	昨年に引き続き総合的な学習の時間の取り組みとして「HIBIZAKI SURVIVAL PROJECTS」をスタートした。今年度は昨年度以上に生徒主体の取り組みになるよう、生徒がやってみたいことを話合った。このサバプロを中心とし、9月21日の公開研究会では複数の教科で関連した授業を行う予定である。地域との連携の仕方も、生徒会やサバプロリーダーが中心となって考えていく。	2		・自分の職場でも、固定電話での業者等の対応が難しい若者が増えていると感じる。実際に対話をする力は将来のためにも必要な事でぜひ、その力をつけて欲しいです。	総合的な学習の時間で行うサバプロや、職場体験学習（今年度・昨年度中止）に変わる取り組み、進路学習などで、社会に出たときに必要なスキルを身に付けさせる。コロナ禍ではあるが、学校内外問わず関わりが持てるよう工夫したい。
		<生徒指導部：ポジティブ> 達成感とあこがれ感を高める学校行事「赤船祭」のバージョンアップを通した主体性（自尊心・スクールプライド）表現力・コミュニケーション能力の向上	○感動・涙・歌声・笑顔あふれる行事の創造と、綿密な行事計画による、達成感のある行事の実施。 ○生徒会を中心とした行事運営を行う。また、リーダーや役割を多くの生徒に与え、活躍できる場を設定する。	○行事満足度 「達成感・あこがれ感」 学校評価・生活調査アンケート ○自尊心アンケート	80% 80%	行事未実施 83%		104%	A	コロナ感染症の影響のため、体育大会が実施できなかった。2学期に実施予定の赤船祭に向けて、生徒自身が達成感やあこがれ感を実感できる行事を目指す。具体的には、団長や各リーダーを中心とした練習や本番の進行を行う。赤船祭後もサバプロや各行事との関連をはかり、生徒会の引継ぎや卒業式に向け、充実感のある学校生活が送れるよう支援し、各アンケートの指標から変化を見取りたい。	2		・朝の登校時に、校区内の横断歩道の誘導をすることがあるが、中学生はよくあいさつをしてくれる。 ・コロナの厳しい環境の中で、学校評価・生活調査アンケートの満足度が高く、評価できます。	3年生のリーダー、各学年のリーダーを中心に行事の練習や準備を行い、生徒主体の活動をする。クラスや学年関係無く行事に取り組み、人間関係を深め、一人一人が役割を持つことで自尊心を高めたい。
	<カリマネによる授業づくり> 「課題設定・話し合い活動」と「ICT活用」による表現力・コミュニケーション能力、主体性の育成	<研究部：チームラボ> 各教科における「課題設定・話し合い活動」と「ICT活用」による「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「人間力」の向上	○各教科での話し合い活動がよりスムーズに深くできるような方法を探索する。 ○ICT機器を積極的に使用し、有効な活用方法を教職員全体で共有する。	○「課題発見・解決学習」にかかわる15項目 ○ICT機器にかかわる項目	○県平均+10P ○平均80%以上	平均80.9% 95%		120%	A	校内で「課題発見・解決学習」にかかわる15項目の調査を行った結果は、昨年度同時期の数値（平均76）と比較して、上回っている。各教科でChromebookを使用した話し合い活動などを積極的に行った結果だと考えられる。1週間にChromebookを活用した回数について、38%が「1週間に4、5日」、57%が「1週間に2、3日」と回答している。夏期休業中に教職員全体でICT研修を行った。その他、「ICTプロジェクト」を立ち上げ、日々の授業のヒントとなる使い方を教職員で共有しているところである。	2		・課題のある生徒にも、職員との連携を密にし、細かい支援や取り組みを通して力をつけてほしいです。	ICT機器のみに頼るのではなく、生徒と実際に会話したり・様子を観察したりして支援をしていく。教員同士での連携も継続して行う。
		<生徒指導部：ポジティブ> 道徳・学活における「課題設定・話し合い活動」と「ICT活用」による「道徳性」、「合意形成力」の向上	○学級経営の充実 日々の授業を基盤とした安心できる学級集団作り ①課題の充実（意欲を高める生徒発信の工夫） ②話し合い活動の充実 道徳・学活 ○ICT機器を活用し、効果的なコミュニケーションを図る。	○学級満足度（アセス） 【学校評価・生活調査アンケート】 【学校生活に関するアンケート】 ○授業満足度（道徳・学活） 【学校評価・生活調査アンケート】 【学校生活に関するアンケート】	80% 80%	89.8% 道徳87.3% 学活94.0%		113%	A	各教科でchromebookを活用して、協同学習を行うなど、コロナ感染症対策を踏まえた学習活動を工夫した。ジャムボードのアプリを用いることで積極的な意見が出せ、手ごたえを感じた。しかし、教職員自身の経験不足もあり、まだ効果的に活用できていない面もある。実践の交流や研修を通して、学校全体としてICT機器を効果的に活用した教育活動を行っていきたい。道徳や学活は、定期的に大学教授や指導主事を招聘しての講義や研究授業を行っている。今後も授業の質を高めていきたい。	2		・目標で日比崎カラーを、目標値・自己評価にて現状の把握・今後の課題設定の流れでよいと思います。 ・ICT機器を活用してのコミュニケーションの対応など、ICT関係のアンケートに今後も興味があります。	ICT機器を教師が使ってみることを積極的に行い、指導力を高めていく。また、生徒がICT機器を使用する「スキル」に加えて「情報モラル」も身に付けていけるよう教育活動全体を通して指導する。
<信頼される学校づくり> 一年を通した感動・涙・歌声・笑顔あふれる教育活動を通した信頼される学校づくり	<教務部：ファイン> 学校教育活動の積極的な発信を通した保護者・地域からの信頼の向上		○HP・学校だよりの工夫、学年通信、学級通信の定期発行。 ○生徒指導部・研究部の実践を校内外へ掲示・情報発信。	・【保護者用】 学校評価アンケート 「学校の様子がよくわかりますか」	90%	94.4%		105%	A	・保護者にweb上でアンケートを実施し、生徒数294名に対して、250名分の回答をいただいた。従来行ってきた紙媒体での便りの発行に加えて、HPでの情報発信を意識的に行っている。HPの更新目標は週当たり4回以上以上に取り組みを進めている。また校外掲示板として校区の商業施設のスペースをお借りして、より多くの地域住民に中学校の取り組みを発信しており、今後も継続して進めていきたい。	2		・全てに対して、目標・自己評価はよいと思います。教職員の皆様の努力により、より一層目標増を期待しています。 ・アンケートに参加できていない保護者への対応をどうするか気になります。	本校教育に対する保護者の希望を様々な方法でキャッチし、校内で協議した上で実践できることを積極的に取り入れていく。保護者アンケートの「よくあてはまる」の回答を増やせるようにこれまでの取組みを継続し、発信していく。
		<教務部：ファイン> Withコロナと働き方改革に対応した新しい学校づくりを通した保護者・地域からの信頼の向上	○業務改善に向けたカエル会議の定期開催。 ○学校行事や生徒会活動を軸としたスクールプライド（日比崎中スタイル）の醸成。	・会議の回数(月1回以上) ・【生徒用】 生活調査アンケート ・【保護者用】 学校評価アンケート 「日比崎中を誇りに思いますか」	90%	・3回/5月 ・91.8% ・92.0% (保護者)		81%	B	アンケート結果からは目標値を上回る評価を得られたが、「よくあてはまる」の回答は、保護者22%、生徒52%だった。日比崎中学校での活動が、かけがえのないものであることを引き続き伝えていきたい。また、業務改善に向けたカエル会議は、月1回以上の目標に対して、60%の実施に留まったので、計画的に実施し、多くの意見を取り入れながら、効率的で効果的な業務に繋げていきたい。	2		・1つの汚点やミス（不祥事）等により、全体への影響は1ではないことを、学校評価委員会の中で伝えたかった。	生徒、保護者、教職員が日比崎中学校を誇りに思えるように、学校長の指導の下で、各取組みを継続していく。アンケートの「よくあてはまる」の回答を増やせるように、より一層組織的で継続的な取組みにしていく。

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80B：80≦（ほぼ達成）<100
D：<60（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。

尾道市立日比崎中学校

方策進行管理シート

様式

令和3年度 尾道市立日比崎中学校

	目標達成のための方策	指標	アンケート項目	活動達成度	12月	方策達成度	取組評価
					目標数 達成数		
化シによる能力・主体性の育成【カリマネによる学校づくりの深】	○生徒会や学級の話合いから生徒発信で挑戦したいことを決める。 ○教科や領域で「サバプロ」を意識した取り組みを入れ、実施する。 ○生徒専門委員会の取り組みと関連づける。	○総合的な学習の時間の授業満足度 ○コミュニケーション能力にかかわる項目 ○新しい単元の開発・実施	・総合的な学習の時間に満足している。 ・授業では、自分の考えや意見を発表しやすい雰囲気がある。 ・授業では、事実や友だちの意見を正確に理解できている。	94.1%	平均85%以上	105%	A
				82.7%	平均80%以上		
	○感動・涙・歌声・笑顔あふれる行事の創造と、達成感のある行事の実施。 ○生徒会を中心とした行事運営を行う。リーダーや役割を多くの生徒に与え、活躍できる場を設定する。	○行事満足度「達成感・あこがれ感」学校評価・生活調査アンケート ○自尊心アンケート8項目	・みんなで何かをやってよかったと思う。 ・日比崎中学校を誇りに思う。	9/21公開研実施	実施の有無		
				88.3%	80%		
力・コミュニケーションによる能力・主体性の育成【カリマネによる授業づくりと課題設定と話し合い活動】	○各教科での話し合い活動がよりスムーズに深くできるような方法を探求する。 ○ICT機器を積極的に使用し、有効な活用方法を教職員全体で共有する。	○「課題発見・解決学習」にかかわる15項目 ○ICT機器にかかわる項目	(別紙アンケートの1～15番) ・1週間に、Chromebook（クロームブック）をどのくらい活用しましたか。（3回以上）	83.5%	県平均＋10P	117%	A
				87.3%	平均80%以上		
	○学級経営の充実（日々の授業を基盤とした安心できる学級集団作り） ①課題の充実（意欲を高める工夫）②話し合い活動の充実 ○ICT機器を活用し、効果的なコミュニケーションを図る。	○学級満足度（合意形成力）【学校評価・生活調査アンケート】 ○授業満足度（道徳・学活）【学校評価・生活調査アンケート】	・クラスは居心地がよい。 ・道徳の授業に満足している。 ・学活の授業に満足している。	89.8%	80%		
				91.6%	80%		
育声く（信頼される活動を通して笑顔あふれる学校づくり）	○HP・学校だより、学年通信、学級通信の定期発行。 ○実践を校外へ掲示・情報発信。 ○業務改善に向けたカエル会議の定期開催。 ○学校行事や生徒会活動を軸としたスクールプライド（日比崎中スタイル）の醸成。	・学校評価アンケート【保護者用】 ・会議の実施回数 ・生活調査アンケート【生徒用】・学校評価アンケート【保護者用】	・日比崎中学校は学校の様子を積極的に伝えようとしている。（学校だより、学級通信、保健だより、ホームページなど） ・日比崎中学校を誇りに思う。	94.1%	90%	105%	A
				94.6%	90% ・4回／4月（100%） ・91.2%（生徒） ・92.5%（保護者）		

【取組評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60